

公益社団法人こどものホスピスプロジェクト 2021 年度事業計画（案）

（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

1・はじめに：2021 年度の重点として

1) 「未来計画（2021～2025 年度中期ビジョン）」を起動させる初年度として

ホスピス開設から 5 年目を迎えた 2020 年。コロナ禍の影響を大きく受けましたが、この社会の情勢を踏まえ、改めて自分たちの取り組みを総括し次 5 年の中期ビジョンを固めた「未来計画」を打ち出すことにしました。この中では、多様なステークホルダーとのコ・クリエーションによって、様々な体験や繋がりを自宅や病院で過ごす子どもたちへ届ける事が可能となるオンラインを中心とした取り組みを広げていくことを柱のひとつに位置づけています。ハウスを起点とした取り組みだけでなく、オンラインによる量的な活動メニューを加えたことでリーチできる範囲を拡大し、重い病気の子どもの暮らしやすい地域社会を拡張するコミュニティへのアプローチを強化します。また、ホスピスの運営を支えるファンドレイジングと戦略的な PR によって多様な参画者を獲得し、「みんな知ってる子どもホスピス」の動きを作っていきます。

2) 「質への挑戦」「ケアの概念の拡充」のためのアプローチを。

これまでも取り組んできた「健常な子どもと同じような、もしくはそれ以上の経験」を文化にする様々な新しい挑戦や事業開発を進めます。パーソナル利用を基軸としながらも、コ・クリエーションによる取り組みの質の深まりや量の広がりによって、子どもの尊厳に迫っていくメニューの多様化、ピアの力を生かしたりオンラインを多角的活用しながら学童以上の年齢層にアピールできる手立てを構築するなど、一緒に手を携えて進められるパートナーとともに、様々なことにチャレンジします。

3) クリエイティブの力を借り、広報力アップによるファンドレイジングの強化

「みんな知っている子どもホスピス」を目指す第一歩として、2021 年度は広報プロの指導のもと、広報力アップを強化し、自分たちの取り組みや思いを効果的に地域に発信できる基盤を固めます。また、公益社団法人の組織基盤の強みを最大限に生かし、2020 年度のコロナ禍の苦境も多くの支援者の方の支えを得て乗り切ることができました。この温かい支援者とのつながりを大事に、コミュニケーションを深める取り組みや基盤拡充を進めます。

2・子どもホスピスのパーソナル利用の取り組みとして

TCH は、地域で支える小児緩和ケアを実践する場として LTC の子どもと家族の抱えるトータルペイン（特に精神的、社会的、スピリチュアルな痛み）に対しアプローチします。

TCH 利用対象者は、生命を脅かされた状態（LTC）の 0～18 歳の子どもとそのご家族です。

【ホスピス利用メニューの拡充と促進】

LTC の子どもときょうだい・親が利用できる TCH では、以下の 2 種類のご利用の方法があります。

①【パーソナル利用】 パーソナル利用のエントリー対象となる LTC の子どもたちに対し、一人ひとりにカスタムされた、遊びや学びや新しい体験の機会を提供します（所定の承認&登録手続きが必要です）。

②【コミュニティ利用】（①の子どもを含めた）LTC の子どもたちに対し、その子やご家族が楽しめるピアプログラムを提供します（プログラムごとの公募制。②の概要は、3 のコミュニティ利用にて解説）。

※上記のメニューの定義の整理により、メンバー登録制度を廃止。これまでのメンバー規約をパーソナル利用規約に全面修正する（2021年5月理事会にて審議予定）。

■パーソナル利用のエントリーに関して（利用エントリー、承認手続き、パーソナル利用登録）

LTC の子どもが、その子らしい時間を生きていけるよう、子ども自身の発意を大切にしながら、その子の願いや希望に友のように寄り添う活動を進めます。

2021年度は、以下の要件に該当する子どもをパーソナル利用のエントリー対象とします。なお、パーソナル利用には、第三者機関の承認委員会による承認を受け、パーソナル利用登録することが必要です。そのため、エントリー対象の子どもたちが早期から TCH を利用できるよう、医療機関と連携した募集活動に取り組みます。

2021年度のパーソナル利用（パーソナル利用登録）の募集要件

エントリーの対象	募集人数
①病状：病状区分※Ⅰ（緊急期・ターミナル期）・Ⅱ（急性期・不安定期）の状態 ・小児がん・心疾患・神経筋疾患・先天性免疫不全など ・子ども本人の希望や意思がある程度確認できること ②年齢：概ね2歳~15歳の子ども ③課題：病気や治療のため、社会的な関わりや交流の機会が非常に乏しい状況にある ④場所：居住地または病院（入院先）が大阪府内にある（大阪府外の場合は、TCH から公共交通機関で、約90分圏内にある）	15名

【パーソナル利用メニューの種類】2021年度のパーソナル利用メニュー一覧

ハウス	■デイユース（日中利用） ■子どもの病状や体調に合わせ、その子の発意を大事にしながら、個別にハウスで遊んだり過ごしたりする時間や機会 ■ステイ（宿泊） ■ご家族でホスピスに泊まることのできるプログラム（個別宿泊：家族としての充実した時間に／集団宿泊：体験の充実やピア感のある対象別のキャンプなど）
訪問	■ビジット（訪問） ■子どもの病状によりホスピスへの来館が困難な場合、入院先の病院やご自宅にスタッフが伺い、子どもやご家族と一緒に過ごすプログラム。
イベント	■フレンズアクティビティ（ピアプログラム） ■子ども同士の力によって、子ども自身が成長していけるよう、病状を配慮した複数の子が集まって取り組む各種アクティビティ（来館が難しい子どもたちが自宅や病院からオンラインで参加できる。親の状況に関係なく、子どもの関心軸で接点を増やしたり、次への意欲につなげるためのプログラム） ■イベント ■①企業や地域の施設などでの実地体験の機会を提供する、②入院中の子どもに見通しのある楽しみと、日常を取り戻す機会をつくる③地域市民や潜在的関心層に TCH を知ってもらい、支援者を広げる、という3つのカテゴリーで実施する地域連携イベント

※この他、TCH が「あり続ける」「思い続ける」「ともにつくる」という姿勢を大事に、ご遺族と緩やかな関わりを持ち続けます（また、月一回、ラビニューデーを設定し、亡くなった子どもたちの大切な記憶と時間を慈しむ時間を持ちます）。

※活動の質をより高めていくため、TCH 利用時の感想や評価などを利用いただいた方々から聞き取る機会（アンケート形式かヒヤリング形式かについては検討中）を持ちます。

3・あそび創造広場を生かした、コミュニティ利用としての取り組み

TCH がある「あそび創造広場」にて、原っぱエリアを一般開放したり、セミパブリックエリアにおいて各種イベントや地域向けプログラムを通じて、あらゆる子どもたちの創造性と協働性を育み、子どもたちがいきいきと遊べるような機会や環境を創り出します。2021 年度は、病気や障害を持つ子どもたちが参加しやすいプログラムの提供に注力し、あらゆる子どもたちを温かく見守る広場となるよう様々な機会づくりを進めていきます。

LTC の子ども向けのプログラム (B) として

ピアプログラム (仮称：MEETS) ...2021 年度の新規プログラムとして、先天性疾患、重度脳性まひ、染色体異常などの疾患で、在宅生活を送る子どもたち、バギーや医療的ケアのため、外出に慣れていない家族が、自宅以外の場所でゆっくり過ごしたり、ピアと交流できるプログラムを実施します。

一般市民向けのプログラム (C) として

あらゆる子どもたちが、思い思いに自由に楽しむ広場として、また市民が子どもや医療、地域社会を考える様々な企画を通して、地域との融和を広げていくような活動に取り組みます。

企業・団体イベント (広場イベント) ...TCH を取り組む社会課題に関する周知や啓発、地域社会のあり方を考えるきっかけになるよう、地域に向けた様々なイベントを開催します。

他団体連携プログラム (「広場」連携プログラム) ...あそび創造広場のコンセプトを踏まえ、TCH の取り組みとの連携・協賛ができ、地域や一般の方に向けた企画やプログラムを提供しようとする団体に TCH の施設の一部をご利用いただき、バリエーション豊かなプログラムを届けます。

原っぱ開放...開館時間はあそび創造広場の原っぱエリアを市民向けに開放します。そのため、原っぱの植栽の維持管理を進め、パブリックエリアとしての地域の子どもの子どもたちや市民が自然に集ったり、ゆったり過ごせるような場を整えます。

※原則、第3日曜：パブリックデイ (対象：A①B②C、エリア：セミパブリック&原っぱ)

4・広報・ファンドレイジング (FR) の取り組み

1) メディア等の外部媒体との連携と、自主的な発信や広報活動

TCH の存在意義と価値を示し、ともに新しい地域社会を作りたいと共感してくださるあらゆる参画者を増やしていくための広報活動を推進します。

①広報基盤の対策と強化

広報制作プロの協力を得て今後の PR 戦略を整理し、様々な広報媒体やファンドレイジングツール、支援者データベースの整備など、広報と支援者対応の基盤固めに注力する1年とします。

②ファンドレイジングイベントごとのキャンペーンの展開

ウィズコロナに対応できるオンライン・オフラインのハイブリッド型の春のファンドレイジングイベントや企業連携による地域展開を意識した秋のファンドレイジングイベントを開催します。

③主たる企画ごとに広報推進を組み入れた動きとして展開

事業者、医療者、当事者やご遺族など、重点を置いたステークホルダーアプローチのファンドレイジング広報の在り方を探求します。

④各種ネットワークや学会等、医療関係者が集まる場における発表や、「アニュアルレポート」の編纂、発行を行います。

2) ファンドレイジングの活動

安定した財源の構築のために、継続的支援者 (TCH マンスリーサポーター等) の拡大が不可欠です。2021 年度も、サポーターの拡大を軸にした寄付収入増加に結び付く取り組みを強化します。

①企業・事業主スポンサー、マンスリーサポーターの拡大

2021 年度も、中小企業や個人事業主、医療事業者などの経営者層への直接的アピールの機会を増やし、企業・事業主スポンサーや個人のマンスリーサポーター拡大を進めます。

②過去につながった方々へのコミュニケーションを強化

顧客データベースを整備し、過去につながった、もしくは、ご支援いただいた方に継続的にアピールし、一時や継続的な寄付の促進を図ります。また、支援者とのコミュニケーションを深める機会や媒体を増やします。

③地域に開いた運営による、ファンレイジングの強化を

サポーターズカフェや広場イベントの実施により支援者の獲得に努めるほか、メディアとのコミュニケーションを深め、発信力のある企画の展開を模索します。

3) 新規財源の獲得のための活動：各種助成金の申請と組織運営ガバナンスの強化

新規財源獲得のため、助成金の新規申請や、協働プロジェクトの開発などを進めつつ、寄付の組織基盤の強化のため、データベースの構築を完了し、コミュニケーション力アップを目指します。また、公益運営に遜色ないよう、ガバナンス強化のためのプランをもとにした基盤整備を進めます。

5・ホスピスの活動を支える人材と組織基盤の強化

1) TCH の人的な態勢づくり

TCH の活動や運営を支える上で重要となる「ひと」に関することを、以下の構成で取り組んでいきます。

・ホスピススタッフ（キャスト）の増員

看護師、保育士、理学療法士など、子どもたちに関わる人材を中心にホスピススタッフ（保育士）を1名増員し、態勢の拡充を進めます。また、ゼネラルマネージャーが TCH の全体統括を、そして、ゼネラルマネージャーとアシスタントケアマネージャーが連携しながら各種事業を推進とマネジメント体制の確立を目指していきます。

・「なかあーま(*'▽`*)」による人的支えの拡充

開設以来実施してきた、登録型の TCH のスタッフと協働しながら事業を進める登録型のキャストボランティアの運用を変更し、様々なイベントや関係先でつながった方々やメンバー・元メンバーの協働による様々な場面での協力体制を作る形にシフトする。この「重い病気の子どもたちとその家族が暮らしやすい社会を拡張する仲間」のことを「なかあーま(*'▽`*)」と呼んで、協働・連携を進めます。

2) 子どもホスピスに関わるスタッフ育成

TCH 開始から5年間の経験を活かし、全国各所に生み出そうとしている、子どもホスピスの活動人材育成のプログラムなどを随時展開し、子どもホスピスの人材強化を進めます。